

日本語ことわざ教育の新機軸—ICT を使い、ことわざから日本の季節感を学ぶ—

本考察で ICT を使った日本語のことわざ教育の意義と価値について述べ、特に ICT で有効だと考えられる天候、季節にまつわる日本語のことわざの教育について考えてみたい。

ICT の教育とは、Zoom でのリアル発信、オンデマンド発信があり、遠隔のものや過去のこと。ものを五感で訴えることができるという利点がある。

それから HP による学習だと時間の制限が気にせず自分のペースで学ぶことができ場の共有できなくても学ぶことができると利点がある。

以上のことから海外ではなかなか実感しにくい季節、天候に関することわざや季節による食に関する日本語のことわざを、ICT を使って教えることは有効であろう。

本考察では春、夏、秋、冬の季節の食の日本のことわざについて、ICT を使った教育、そして、そのことわざ教育を通して日本の季節感、食べ物を紹介する一例も紹介したい。

季節のことわざの例は「初物は 75 日」「夏は熱いものが腹の葉」などを取り上げる。それらのことわざについて動画を入れながらことわざの意味と季節感を感じてもらい、そのことわざにあった食べ物の紹介（レシピも含む）することで日本の食文化に触れることができることを示したい。

そして、以上のことを学んだまとめとして、自分の国の季節、自然と食に関することわざを調べ、日本のことわざとどう違うのかについて考えると自分の国の風土のことも理解できる。そのことについても言及したい。